

## 令和6年度第1回千歳市中小企業振興審議会 開催結果

日 時 令和6年9月3日（火） 14:00～15:00

場 所 千歳市総合福祉センター402号室

出席者 千歳市中小企業振興審議会委員（14名）

藤川委員、今村委員、小松委員、塩原委員、本村委員、山本委員、小渡委員、  
金沢委員、佐藤委員、沼田委員、曾根委員、五十嵐委員、檜森委員、磯部委員  
事務局（4名）

産業振興部次長、商業労働課長、商業労働課商業振興係長、商業労働課商業振興係

会議次第

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

（1）報告事項

報告第1号 千歳市を取り巻く経済等の概況について (別冊1)

報告第2号 千歳市中小企業振興融資について (別冊2)

報告第3号 創業支援関連事業について (別冊3)

報告第4号 新型コロナウイルス感染症対応資金の実施結果について (別冊4)

事務局から資料に基づき説明。

<報告抜粋（第1号）>

・人 口

令和3年から令和5年にかけて人口が減少傾向にあったが、令和6年は増加に転じた。

・雇用情勢

ハローワーク千歳における、千歳圏（恵庭、夕張地区を含む）の有効求人倍率は、年度平均・月間有効求人倍率いずれも、全国平均や全道平均と比較して、やや低い状況となっている。

・観 光

新型コロナウイルス感染症の影響でコロナ前の3分の1程度まで落ち込んでいたが、徐々に回復しており、今年度は更に回復することを期待している。

新千歳空港の乗降客数については、令和4年から回復し、昨年は新型コロナウイルス感染症前の水準まで戻ってきている。

・金 融

預金額、貸出金額ともに令和2年以降増加している。

<報告抜粋（第2号）>

千歳市中小企業振興融資制度は、市内中小企業への支援として、市内7金融機関に融資原資を預託し、各金融機関は、運転資金など6つの資金の融資を行っている。

これら資金については、市が総額5億5,000万円を市内各行に預託し、各金融機関には、預託額の3倍以上の融資枠を設定いただいている。

令和5年度は、84件、5億7,063万円の新規融資が実行された。

融資額は令和2年度に大きく減少しているが、これは令和2年度に実行した「新型コロナウイルス感染症対応資金」の導入により、通常の制度融資があまり使われなかったものであり、令和4年度以降は新型コロナウイルス前までの水準に戻りつつある。

なお、今年度については融資額、保証料補給総額ともに大きく増加しており、近年最も利用が多かった平成30年度の実績を上回るペースで推移している。

セーフティネット保証については、例年20件前後で推移していたが、本年6月で新型コロナウイルス感染症に係る4号認定が終了したことから、今後は減少が見込まれる。

#### <報告抜粋（第3号）>

「ちとせ創業支援セミナー」について、具体的には、これから創業する予定である方を主な対象として、「経営」「税務」「販路開拓」「人材育成」のジャンルごとに、経営の基礎知識や創業時に必要となるノウハウを習得することを目的に全4回実施し、昨年1月から2月にかけて実施し、各回15～16名の参加があった。

なお、複数回の開催要望があったことから、令和6年度は千歳商工会議所と連携し、年2回開催することとしている。

創業支援事業としては、「ちとせ創業支援セミナー」に加えて、将来的な創業の機運醸成を目的とした事業も行っており、

「イノベーション人材育成セミナー」については、大学生を対象とし、会社設立のきっかけや、経営者として必要なことなどについて講演いただいた。

「千歳学出前講座」については、令和5年度から新たに始めた取組であり、市が行う出前講座の中で、創業の普及啓発を行うものである。

令和5年度は2校から依頼があり、千歳の産業、商業の話に加え、求人が多い職種や、創業など、就職以外の働き方について紹介している。

「オリジナルキャリア支援事業」については、令和3年度から実施している女性向けの創業支援事業となっており、女性が自身の望むキャリアを重ねていけるよう支援するもので、令和5年度は延べ169名の利用があり、うち6名の起業に繋がった。

#### <報告抜粋（第4号）>

市の制度融資である「新型コロナウイルス感染症対応資金」は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける市内事業者の支援を目的に、市内金融機関のご協力をいただきながら、令和2年度に国や道に先駆けて実施した。

本融資は、限度額を既存の市の制度融資より多い3,000万円としたほか、融資実行から36か月分の利子を市で補給するなど、より事業者支援につながる内容としており、

融資実績は総額48億円、保証料補給総額は1億9千万円、利子補給総額は1億2千万円であった。

国は令和6年7月から資金繰り支援をコロナ前の水準に戻し、今後の資金繰り支援は経営改善、再生支援を基本としており、市も小口企業資金の活用などで、引き続き中小企業の資金繰り支援を継続する。

報告事項に係る質疑・意見等はなく、報告済となった。

### (3) 情報交換【中小企業の現状について】

(会長)

中小企業の現状について、各委員の所感を伺いたい。

(A委員)

今後人口が1万人規模で増加するという報道もあり、アパート、マンション、ホテルが建設ラッシュとなっている。

大手企業のベースアップに伴い、中小企業でもベースアップをしなくてはならない状況であるが、大手ほどの体力がなく、賃金面で見劣りすることも考えられることから、人手の確保がより厳しくなるのではないかと懸念している。

現行での事業者への支援策としては、融資制度の活用が第一と考えているので、引き続き千歳市の制度融資を手厚く継続して欲しい。

(B委員)

ラピダス社進出の影響により市内の空き不動産が減少しており、これまで空室となっていたような古い賃貸物件でも借り手が見つかっている。

(C委員)

商工会議所では日本政策金融公庫のマル経融資（小規模事業者経営改善資金）を取り扱っているが、札幌市では支所あたり年間およそ100件受け付けているのに対して、千歳市では年間1件である。千歳市の制度融資は保証料全額補給など条件が良いため、皆そちらを使っている状況。保証料補給の負担は大きいと思うが、継続していただきたい。

(D委員)

雇用について、当社は34人中5人が外国人であり、高齢者の方なども含め、多様な方に働いてもらっている。

採用活動は元より、既存の社員を退職させないよう一律5%の給料アップも3年連続で行っている。また、パパ育休を取っている者もおり、人材を繋ぎとめるためには何でもやらないといけない状況である。

価格転嫁については、当社は産業廃棄物処理業ということもありできているが、競合他社が存在するような業種では価格転嫁は難しいのではないかと考えている。

(E委員)

食品業界の業況は悪くないと思う。当社は千歳市内の売上が全体の3%なので、全国を対象にやろうと思えば色々な手は打てる。

原料の高騰が問題になっているが、売値を上げるだけなので大きな問題とはならない。大手も同様で、売値が上昇すると利益率が向上することから、内心では喜んでいる面もあると思う。

製造業に限らず卸売や小売業でも値上げすれば良いだけであり、消費者は厳しくなるものの、賃上げが進めば経済成長にもつながるものと考えている。

食品業界に限ると、コロナ禍で外食は減少したものの、家での消費に変わっただけであり、消費の総量はそう変わらない。外食産業は大変だと思うが、スーパーなどの小売向けに移行するなど、フットワークの軽さが生き残りに重要であると感じる。

(F委員)

千歳市の景気は、他市と比較して底堅いと考えている。

融資実績も年7パーセント程度の伸びを示しており、他自治体と比較しても好調である。

これは、市の制度融資が充実していることが理由と考えているので、引き続き拡充してほしい。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響が残っている事業者もいることから、こちらについては伴走型で事業者支援を行っていく。

(G委員)

一度融資条件を変更した事業者が再度条件変更するなど、好調の事業者とそうでない事業者に二極化されているという印象である。

当行も短期プライムレートを引き上げたところであるが、今後金利上昇の影響がどう出るかを注視して、柔軟な対応をしていきたい。

#### (H委員)

原材料や仕入価格が高騰し、人件費も上がっているが、それを価格転嫁出来ていない事業者が散見されるほか、人手不足の影響も広がっているように感じる。

業種別に見ると、建設業界はラピダス社の工事などで安定しており、旅行業界もインバウンドが増加傾向なので好調である。一方で、住宅業界は土地・建築価格が上昇し、受注数や利益率が減少傾向である。景気が上向いていることは確かではあるが、実感するにはまだまだの状況である。

#### (I委員)

ラピダス社の進出などで賃貸物件がかなり減少している。

今年4月に入庫した新規採用職員も、千歳市内で住宅が見つからず苫小牧市から通勤している状況であり、別の職員も着任してから住宅を見つけるまでに1か月を要した。

住宅の不足、家賃の高騰は地元企業の採用にも影響が出るだろうし、来年4月に公立千歳科学技術大学へ入学する学生への影響も心配である。

一方で、半導体は裾野の広い産業だと思うので関連企業の立地に期待したい。

#### (J委員)

コロナからの立ち直りは進んでおり、好調な事業者が多い。一方で、融資条件変更を行う事業者も増えてきており、全体的には良いもののまだ回復途上であると感じている。

最近是不動産価格が高騰し、購入時よりも高値で売却できる場合もあることから、アパートローン返済途中で売却するといった事例も出てきている。

#### (K委員)

全体としては回復傾向だと思うが、融資条件変更や、伴走型支援の対象となっている事業者もいる。

これまでは新型コロナウイルス感染症対応資金の利用が大半であったが、今年に入ってから運転資金など前向きな融資を使う事業者が増えてきた印象である。

千歳市の制度融資は充実していることから、引き続き継続して頂きたい。

#### (L委員)

当庫では、不動産融資に特化しているが、土地価格高騰の影響が大きいと認識している。

また、不動産の供給も減少していることから、賃料上昇にもつながっているが、今後供給が増えてくれば落ち着くものと考えている。

建物を建築する側としては、建築費の上昇は納得できるものの、土地価格の高騰は中々理解を得られにくい。

また、来年2月からは、生コンの価格が1㎡あたり4千円上昇する見込みであることから、年内の建設を急いでいる者も多い。当庫としては融資で協力していきたいと考えている。

制度融資については新規の相談を4件受けており、その中では新規創業や本社移転の話も聞いている。

#### (M委員)

様々なご意見を頂戴し、感謝申し上げます。

皆様のお話を伺い、本市は恵まれているということを感じた。人口減少、コロナからの回復、物価上昇など様々な課題があるが、他の自治体に比べて明るい方向に向かっていると認識している。

一方で、アパートの賃料上昇や空いている土地・人材の不足といった影響も出ている。これらが望ましいものではないが、過渡期として受け入れていかなければならないと考えていることから、住民理解が得られるよう施策を進めていきたい。

また、千歳市の制度融資については、皆様のご意見をいただきながら、新しい内容の検討を含め推進していきたい。

#### 4 質疑応答

(M委員)

ベースアップについて、大手企業は内部留保を活用して実施していると報じられているが、中小企業においてはそのような内部留保がないのではないかと感じている。

売上を向上させて生じた利益をベースアップに回すのが基本だと思うが、その為の設備投資支援など、どのような支援策が必要なのか伺いたい。

(F委員)

ベースアップには売上増が基本となり、その為の設備投資に助成することは有効であると考ええる。

今後、金利上昇が確実であることから、助成を実施するのであれば、早く実施した方が良い。また、特定の業種ではなく、幅広い業種で活用できる制度とするのが良いと思う。

(E委員)

利益がないから設備投資を行わないという人が多いが、設備投資を行えばランニングコストを抑えることができる。例えば、3,000万円の設備投資をして新しい建物を建てれば業務効率化に繋がり5,000万円の一般管理費が減るということを計算ができていない人が多い。目の前の出費のことしか考えないで投資しない人が自分の周りにも多いが、計画を立てて設備投資を行えば、投資した分より経営は上向くと思う。

(D委員)

順序が逆になっている人が多い。儲かったから賃金を上げる、投資する、ではない。売上を上げるために先に行うものだと思う。

(E委員)

当社では人が足りていても人を入れている。予算を立てている以上、その人件費は使う。人が足りないから入れるということではない。辞められないように給料を高くするというのも違うと思っていて、心地よい職場にすれば離職されないための手立てを考える必要はない。

最近テレビCMを始めて2,000～3,000万円の費用がかかっているが、それが売上に直結しているということではない。しかし、働いている人たちには誇らしい会社になってきているという感触はある。知名度のある会社で働いているということは社員の定着にも繋がっている。

また、社員の平均年齢を40歳に設定しており、もし平均年齢が41歳になったら下げるために35歳以下の人しか採用しないなど、平均年齢の維持は徹底してやっている。社員が幅広い年代で構成されていることはとても重要だと考えている。

#### 4 閉会